

## 「刺激」を「力」に

八時からの朝読書の時間に、今日は「自学ノート交流会」が開かれました。私は三年生の二つの学級の交流会を見に行きました。

「めっちゃ勉強しとるやん！」

こんな声が私の耳に届きました。ノートを見せてもらって、仲間の努力の跡を目の当たりにした時に生まれた言葉です。十分間の交流ということで、効果的な勉強方法の交流とまではいかなかったかもしれませんが、周りの仲間の刺激にはなったようです。この刺激を自分にどれくらい生かすことができるかが大切になってきます。

この光景を見て、私は自分の中学時代のあるシーンを思い出しました。

それは、三年主任のN先生が私たちの学級で、授業に入る前にこんな質問をしたときのことでした。

「君たちは家でどれくらい勉強しとるんや？」

N先生のこの質問に、私たちは挙手で答えました。一、二時間という生徒がほとんどでした。皆をきよきよししながら、辺りをはばかりるように挙手していました。それを知ったN先生は、次に衝撃のひとことを言われました。

「隣のクラスで同じ質問したら、毎日五時間勉強している者がおったぞ。だれかわかるか。Mだ。堂堂と手を挙げてそう言ったぞ。やはり、それくらいやらなあかんあ。」

同級生のM君は、小学校の時にはそんなに目立つ生徒ではありませんでした。しかし、中学生になり、確実に力をつけてきていました。彼の「五時間」という数字を、だれも疑いませんでした。それに見合う力を彼がもっていることを、だれもが知っていたからです。

私には大きな刺激となりました。自分ではがんばっているつもりでも、仲間ももっとがんばっている…M君の五時間というレベルにはいきませんでした。それから私の学習はかなり変わりました。M君が刺激を与えてくれたお陰です。彼は某国立大学法学部を出て、T自動車に入社しました。今でもその会社でがんばっていることでしょう。

「自学ノート交流会」で刺激を受けたら、次はその刺激を踏み台にして、自分の学習の質も量もパワーアップさせることです。最終的に身につけるのは「学力」ですが、その前に「学習力」が必要です。「すごいなあ」の感心だけでは何も変わりませんからね。

(九月三日 記)

